

# 放射線治療科 研修プログラム

## 1 研修先

放射線治療科

## 2 指導体制

各科・診療部門における指導体制は、別表「指導医及び指導一覧」を参照

## 3 診療科基本スケジュール

- (1) 研修期間 自由選択研修 4週間 ※自由選択が1回目の研修は当該期間を短縮することはできない(延長は可)が、2回目以降の研修は短縮することができる。

### (2) 研修期間割、配置予定

	自由選択研修
外 来	指導医の下で外来患者を診察する。
治 療 計 画	放射線治療計画を指導医の下で行う。
小線源治療	指導医の助手を務める。

### (3) 週間予定表

	午 前	午 後
月	外来診察、放射線治療計画	外来診察、放射線治療計画
火	外来診察、放射線治療計画	外来診察、放射線治療計画
水	外来診察、放射線治療計画	小線源治療
木	外来診察、放射線治療計画	小線源治療、放射線治療計画
金	外来診察、放射線治療計画	放射線治療計画

## 4 研修目標

- ・各種癌における放射線治療の適応と治療方針について理解する。
- ・癌患者の診察手技およびICの取得について学ぶ。
- ・放射線治療に必要な画像診断について学ぶ。
- ・放射線治療の主な対象疾患の治療計画方法を習得する。
- ・小線源治療の理論と手技を理解する。

#	代表的行動	知識	態度	技能
①-1	放射線治療が禁忌の病態ではないか確認できる	●		
①-2	放射線治療が適応される疾患を理解している（根治的もしくは緩和的）	●		
②-1	放射線治療の適応を判断するために必要な診察や画像検査法を知っている	●		
②-2	放射線治療の方針について自ら検討し、上級医とディスカッションする	●	●	●
③-1	手術療法と薬物療法の治療効果を理解した上で放射線治療の効果を説明できる	●		○
③-2	照射される場所に応じた急性期有害事象と晩期有害事象の説明が出来る	●		○

#	代表的行動	知識	態度	技能
①-1	相手を尊重する態度で話を聞くことが出来る		●	
①-2	相手に分かりやすい言葉で説明することが出来る		●	
①-3	疾患に応じた診察を行うことが出来る		●	
②-1	放射線治療を行うための段取りを理解し、正しく指示を出すことが出来る	●		●
②-2	簡単な放射線治療の計画を立案することが出来る	●		●
②-3	放射線治療に関して患者や家族が期待する内容について把握している	○	●	○
③-1	放射線治療期間中の患者や家族の訴えに対して適切に対応できる	○		●
③-2	対応した内容を適切な文言で遅滞なく診療録に記載できる	○		●

## 5 経験すべき症候・疾病・病態（赤文字下線付きは必須項目）

経験すべき症候(※1)	特定のもの:なし
経験すべき疾病・病態(※2)	肺癌

※1 外来又は病棟において、上記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

※2 外来又は病棟において、上記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

## 6 経験すべき手技

特定なものなし

## 7 実際の業務

- ・初診患者の病歴聴取と診察を行う
- ・指導医とともに治療方法の決定と患者への説明を行う
- ・放射線治療中および治療後の経過観察患者の診察
- ・放射線治療の主な対象疾患の治療計画を、治療計画装置を用いて行う
- ・小線源治療の助手を務める
- ・カンファレンス（頭頸部腫瘍、消化器癌、呼吸器疾患、乳癌、放射線治療科精度管理）に出席する。
- ・放射線治療に関わる論文を読み理解する

## 8 指導内容

- ・個々の症例に対する診療についての相談・指導
- ・診療録の確認・指導
- ・放射線治療計画の評価・指導

## 9 方略・評価

- ・診療科基本スケジュールに沿って研修を行う。
- ・経験症例について指導医にプレゼンテーションを行い、指導を受ける。
- ・研修終了後、指導医、スタッフから評価、フィードバックを受ける。